

指導例 12

- 1 主題名 あきらめない心
- 2 資料名 「花のような一生」 ～林 芙美子～
- 3 ねらい 一度目標をもって決めたことは、障害があっても希望をもってやり通す態度を養う。
(1)-(2) 希望, 勇気, 不とう不屈)

4 主題について

(1) 価値について

人はだれでも、自分の夢や希望を実現させたいと思うものである。しかしながら、その目標が高ければ高いほど障害も大きくなるものである。自分の立てた目標を達成するためには、希望をもって最後までやり通そうとする強い意志や忍耐力・行動力が必要である。

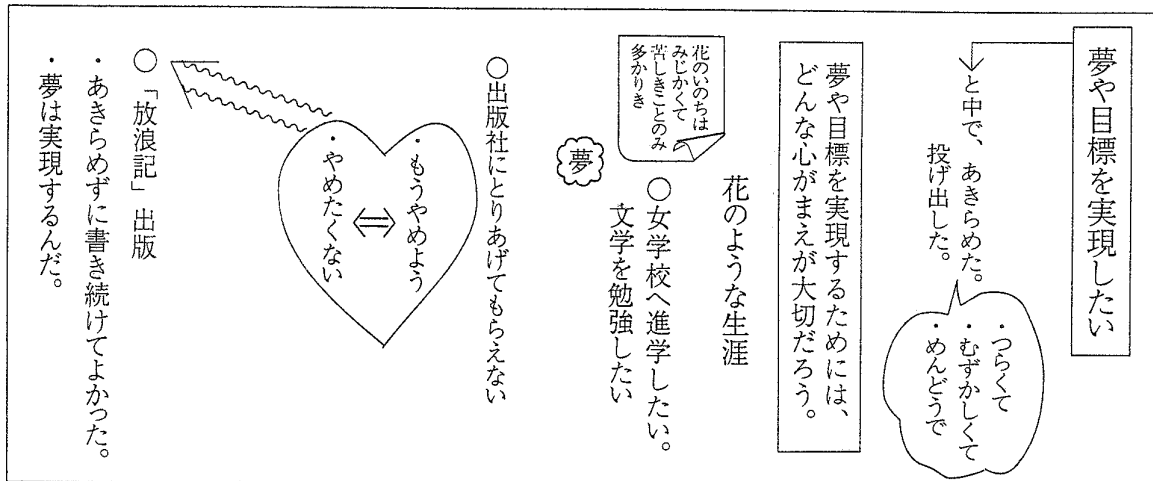
(2) 児童の実態

小学校高学年の子供たちは、興味・関心が旺盛で、いろいろなことに挑戦してみようとする意欲が高い。しかし、それが難しいことや面倒なことであったり、自己犠牲を払わなければならなかったりすると、簡単に途中で投げ出してしまうことも少なくない。このような子供たちに、自分の夢や目標を大切に、その実現のために困難に立ち向かおうとする態度を養うことは意義深いことである。

(3) 資料について

本資料は、貧しさや苦勞にも負けず、自分の目標を大切に小説を書き続けた林芙美子の話である。主人公は、郷土ゆかりの著名な作家であるにもかかわらず、子供たちにはなじみの薄い人物である。しかし、その生涯は、数々の困難にも負けず、明るく、希望を失うことなく生活し、目標を達成していくものであり、子供たちの共感をよび、この生き方を通して、一度決めたことは、障害があっても希望をもってやり通すことの大切さを再考させるのに適した資料である。

5 板書例



6 参考文献

- 「放浪記」林芙美子（新潮文庫）
「かごしまの心」鹿児島県資料研究会編

7 展開例

過程	主な学習活動（・子供の意識）	指導上の留意点
導 入	<p>1 一度立てた目標を途中で投げ出してしまった経験や、その理由について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんなことが、なぜやり通せなかったのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みの自由研究を途中で投げ出した。難しかったし、面倒臭くなったからだ。 ・ 体力作りを1週間でやめた。飽きてしまった。 ○ そのことについてどう思うか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ やめなければよかった。 ・ どうして、一度やろうと決めたことを途中で投げ出してしまうのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前アンケートをもとに、さまざまな経験が出されるように意図的に指名しながら、個々の経験が全体へと広がるように配慮する。 ○ 「やめなければよかった」という意識をもとに、「一度決めたことを最後まで続けるにはどんな気持ちが必要なのか」という共通の課題意識へと練り上げていく。
展 開	<p>2 資料「花のような一生～林芙美子～」を読み、主人公芙美子の粘り強くやり通す心について話し合う。</p> <p>(1) 貧しい生活の中でも、芙美子が女学校へ進学したいと願ったのはなぜか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きな文学について勉強したい。 <p>☆(2) 自信を持って、出版社に届けた小説が速達で送り返されてきた時、芙美子はどんなことを思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わたしには、才能がない。あきらめようか。 ・ なぜ、わたしの作品は取り上げてもらえないのだろうか。どうすればいいのだろう。 ・ こんなことでは、あきらめないぞ。 ・ もっといい作品を書こう。 ・ 自分が好きで始めたことだ。途中であきらめてはいけない。がんばろう。 ・ 夢を実現するためには、つらいこともある。負けずに書き続けよう。 <p>(3) 初めて自分の作品が本に載ったとき、芙美子はどんなことを考えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うれしい。これで夢がかなった。 ・ 途中で投げ出さずに、続けてきてよかった。 ・ あきらめずにやれば、夢は実現するんだな。 <p>3 日常生活の中で、くじけずにやり通した経験と、どんな気持ちでやり通すことができたかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ピアノのレッスンを、3年間一日も休まずに続けている。コンクールの優勝という、目標を実現させたいからだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 林芙美子について、簡単に説明をしてから資料を読ませる。 ○ 貧しい生活の中で、抱いた大きな夢であることを共感的に押さえることができるようにする。 ○ 中心発問に対する、自分なりの考えを道徳ノートに書かせ、それを基に多様な見方や考え方が話し合いの場に出されるように意図的に指名する。 ○ 一生懸命に書いた作品が読んでももらえない芙美子の辛い気持ちを考えさせ、夢をあきらめそうになったり、くじけそうになったりする気持ちと、何とせよやり通そうとする気持ちの両方について、考えを深めることができるように話し合いを進める。 ○ 夢がかなった喜びだけでなく、なぜ、夢を実現することができたのかということに意識を向けさせる。
終 末	<p>4 教師の説話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生にもくじけそうになりながら、やり通した経験があるんだな。そんな生き方っていいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師自身の経験や、子供たちの日記などを紹介し、粘り強くやり通そうとする意欲を高める。